

# 日本・アジア／米国間コンテナ貨物の荷動き動向について

## (2015年5月(往航のみ)速報値)

(公財)日本海事センター・企画研究部

(公財)日本海事センター・企画研究部は、PIERS(Port of Import/Export Reporting Service)の統計データを基に、『日本・アジア／米国間のコンテナ貨物の荷動き動向』を毎月発表しています。

### 2015年5月の荷動きのポイント

**往航** 5月の往航荷動き量は131.2万TEUで対前年比5.6%増。

- 5月の往航荷動き量は、前年比3ヶ月連続の増加となる5.6%増の131.2万TEUと2ヶ月ぶりの130万TEU台。5月の単月では過去最高を更新するとともに、1-5月の累計は前年同期比3.8%増の598.6万TEUと過去最高を更新。国・地域別では、日本積(前年比0.6%減)、香港積(同12.2%減)などが前年比減少となったものの、中国積(同5.1%増)、韓国積(同0.003%増)、台湾積(同10.5%増)、ASEAN積(同13.6%増)、南アジア積(同9.1%増)などが前年比増加となった。品目別では、「繊維及びその製品」(寄与度0.8%)、「家具及び家財道具」(同0.6%)、過去最高を更新した「床材・ブラインド等のプラスチック製品」(同0.4%)などが増加に寄与。
- 日本積は、第3位(2014年の年計ベースの各国・地域の品目別順位、以下同様)の「自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ」(前年比27.1%増)が前年比3ヶ月連続で20%を超える増加となったものの、第1位の「自動車部品」(同7.2%減)が同5ヶ月連続の減少、第2位の「車両機器及び部品」(同1.8%減)が同3ヶ月ぶりの減少、第4位の「建設機械」(同7.2%減)が同5ヶ月連続の減少となったことなどにより、同3ヶ月ぶりの減少となる0.6%減の5.0万TEU(全体に占めるシェア3.8%)。
- 中国積は、第6位の「履物及び付属品」(前年比7.0%減)と第7位の「テレビ・ビデオ等の映像・音響製品」(同10.7%減)が前年比2ヶ月連続の減少となったものの、第1位の「家具及び家財道具」(同3.7%増)、第2位の「繊維及びその製品」(同12.9%増)、第3位の「一般電気機器」(同4.8%増)、第4位の「おもちゃ」(同6.7%増)などの上位品目が前年比2ヶ月ぶりの増加となったことなどにより、同2ヶ月ぶりの増加となる5.1%増の86.8万TEU(全体に占めるシェア66.2%)。また、香港積は、前年比2ヶ月連続で10%を超える減少となる12.2%減の2.7万TEU(全体に占めるシェア2.1%)。なお、中国・香港積合計では、前年比2ヶ月ぶりの増加となる4.5%増の89.6万TEU(同68.3%)。
- 韓国積は、第1位の「自動車部品」(前年比10.1%減)が前年比2ヶ月ぶりの減少、第2位の「一般電気機器」(同24.7%減)が同2ヶ月連続で10%を超える減少となったものの、第3位の「自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ」(同29.0%増)が同3ヶ月連続で20%を超える増加、第4位の「車両機器及び部品」(同21.1%増)が同2ヶ月連続で20%を超える増加となったことなどにより、横ばいながらも同3ヶ月連続の増加となる0.003%増の6.9万TEU(全体に占めるシェア5.3%)。
- 台湾積は、第1位の「自動車部品」(前年比4.8%減)が前年比4ヶ月ぶりの減少となったものの、第2位の「建築用具及び関連品」(同15.7%増)と第4位の「床材・ブラインド等のプラスチック製品」(同29.6%増)が同4ヶ月連続で10%を超える増加、第3位の「家具及び家財道具」(同9.9%増)が同4ヶ月連続の増加となったことなどにより、同4ヶ月連続で10%を超える増加となる10.5%増の5.4万TEU(全体に占めるシェア4.1%)と好調維持。
- ASEAN積は、カンボジア積(前年比4.2%減)以外が前年比増加となったことなどにより、全体では前年比3ヶ月連続で10%を超える増加となる13.6%増の17.6万TEU(全体に占めるシェア13.4%)。ベトナム積は、第8位の「コーヒー、茶、ココア、香辛料及び蜂蜜」(前年比32.8%減)が前年比5ヶ月連続で10%を超える減少となったものの、第1位の「家具及び家財道具」(同5.9%増)が同3ヶ月連続の増加、第2位の「繊維及びその製品」(同15.3%増)が同3ヶ月連続で10%を超える増加、第3位の「履物及び付属品」(同12.1%増)が同4ヶ月連続で10%を超える増加となったことなどにより、同3ヶ月連続で10%を超える増加となる12.8%

増の6.5万TEU（全体に占めるシェア4.9%）。

- **南アジア積**は、スリランカ積（前年比1.5%減）、パキスタン積（同1.8%減）となったものの、インド積（同12.3%増）が好調を維持していることなどから、全体では前年比4ヶ月連続の増加となる9.1%増の6.7万TEU（全体に占めるシェア5.1%）。**インド積**は、第3位の「香料、染料、化粧品原料」（前年比14.2%減）が前年比2ヶ月連続で10%を超える減少となったものの、第1位の「繊維及びその製品」（同5.7%増）が同11ヶ月連続の増加、第2位の「鋼材及びその製品」（同18.4%増）が同11ヶ月連続で10%を超える増加、第4位の「セメント、石、砂、粘土等」（同16.2%増）が同3ヶ月連続で10%を超える増加となったことなどにより、同3ヶ月連続で10%を超える増加となる12.3%増の4.8万TEU（全体に占めるシェア3.7%）。

注：集計は、日本、韓国、台湾、中国、香港、マカオの他、ASEANのうちシンガポール、フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの8ヶ国、南アジアのインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュの4ヶ国、合計18ヶ国・地域を対象としている。また、速報値ベースでの発表のため、後に数ヶ月前の数値に若干の修正が加わる場合がある。

表-1 2015年5月：積揚国・地域別荷動き

国・地域	往 航			復 航			インバランス (%)
	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	シェア (%)	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	シェア (%)	
<b>18ヶ国・地域 合計</b>	<b>1,312,101</b>	<b>5.6</b>	<b>100.0</b>				
日 本	49,902	▲0.6	3.8				
韓 国	69,235	0.003	5.3				
台 湾	53,809	10.5	4.1				
<b>中国+香港 計</b>	<b>895,956</b>	<b>4.5</b>	<b>68.3</b>				
中 国	868,495	5.1	66.2				
香 港	27,461	▲12.2	2.1				
マカオ	24	▲3.3	0.0				
<b>ASEAN 計</b>	<b>176,463</b>	<b>13.6</b>	<b>13.4</b>				
シンガポール	8,786	15.4	0.7				
フィリピン	10,645	19.8	0.8				
マレーシア	24,105	8.8	1.8				
インドネシア	32,035	13.2	2.4				
タ イ	33,147	19.0	2.5				
ベトナム	64,591	12.8	4.9				
カンボジア	3,000	▲4.2	0.2				
ミャンマー	154	140.2	0.0				
<b>南アジア 計</b>	<b>66,712</b>	<b>9.1</b>	<b>5.1</b>				
スリランカ	3,012	▲1.5	0.2				
バングラデシュ	7,460	7.3	0.6				
パキスタン	8,268	▲1.8	0.6				
インド	47,971	12.3	3.7				
<b>2015年1-5月累計</b>	<b>5,985,753</b>	<b>3.8</b>					

## 往 航 (アジア 18ヶ国・地域 ⇒ 米国)

- 2015年5月のアジア18ヶ国・地域から米国へのコンテナ荷動き量は、前年比3ヶ月連続の増加となる5.6%増の131.2万TEUと2ヶ月ぶりの130万TEU台。5月の単月では過去最高を更新するとともに、1-5月の累計は前年同期比3.8%増の598.6万TEUと過去最高を更新した。
- 国・地域別では、日本積（前年比0.6%減）、香港積（同12.2%減）などが前年比減少となったものの、中国積（同5.1%増）、韓国積（同0.003%増）、台湾積（同10.5%増）、ASEAN積（同13.6%増）、南アジア積（同9.1%増）などが前年比増加となった。
- 品目別では、「繊維及びその製品」（寄与度0.8%）、「家具及び家財道具」（同0.6%）、過去最高を更新した「床材・ブラインド等のプラスチック製品」（同0.4%）などが増加に寄与した。
- 積地別にみると、日本積は第3位（2014年の年計ベースの各国・地域の品目別順位、以下同様の「自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ」（前年比27.1%増）が前年比3ヶ月連続で20%を超える増加となったものの、第1位の「自動車部品」（同7.2%減）が同5ヶ月連続の減少、第2位の「車両機器及び部品」（同1.8%減）が同3ヶ月ぶりの減少、第4位の「建設機械」（同7.2%減）が同5ヶ月連続の減少となったことなどにより、同3ヶ月ぶりの減少となる0.6%減の5.0万TEU（全体に占めるシェア3.8%）。
- 最大の出荷国である中国積は第6位の「履物及び附属品」（前年比7.0%減）と第7位の「テレビ・ビデオ等の映像・音響製品」（同10.7%減）が前年比2ヶ月連続の減少となったものの、第1位の「家具及び家財道具」（同3.7%増）、第2位の「繊維及びその製品」（同12.9%増）、第3位の「一般電気機器」（同4.8%増）、第4位の「おもちゃ」（同6.7%増）などの上位品目が前年比2ヶ月ぶりの増加となったことなどにより、同2ヶ月ぶりの増加となる5.1%増の86.8万TEU（全体に占めるシェア66.2%）。また、香港積は、前年比2ヶ月連続で10%を超える減少となる12.2%減の2.7万TEU（全体に占めるシェア2.1%）。なお、中国・香港積合計では、前年比2ヶ月ぶりの増加となる4.5%増の89.6万TEU（同68.3%）。
- 韓国積は、第1位の「自動車部品」（前年比10.1%減）が前年比2ヶ月ぶりの減少、第2位の「一般電気機器」（同24.7%減）が同2ヶ月連続で10%を超える減少となったものの、第3位の「自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ」（同29.0%増）が同3ヶ月連続で20%を超える増加、第4位の「車両機器及び部品」（同21.1%増）が同2ヶ月連続で20%を超える増加となったことなどにより、横ばいながらも同3ヶ月連続の増加となる0.003%増の6.9万TEU（全体に占めるシェア5.3%）。
- 台湾積は、第1位の「自動車部品」（前年比4.8%減）が前年比4ヶ月ぶりの減少となったものの、第2位の「建築用具及び関連品」（同15.7%増）と第4位の「床材・ブラインド等のプラスチック製品」（同29.6%増）が同4ヶ月連続で10%を超える増加、第3位の「家具及び家財道具」（同9.9%増）が同4ヶ月連続の増加となったことなどにより、同4ヶ月連続で10%を超える増加となる10.5%増の5.4万TEU（全体に占めるシェア4.1%）と好調維持。
- ASEAN積は、カンボジア積（前年比4.2%減）以外が前年比増加となったことなどにより、全体では前年比3ヶ月連続で10%を超える増加となる13.6%増の17.6万TEU（全体に占めるシェア13.4%）。積地別では、ASEAN地域最大のベトナム積は、第8位の「コーヒー、茶、ココア、香辛料及び蜂蜜」（前年比32.8%減）が前年比5ヶ月連続で10%を超える減少となったものの、第1位の「家具及び家財道具」（同5.9%増）が同3ヶ月連続の増加、第2位の「繊維及びその製品」（同15.3%増）が同3ヶ月連続で10%を超える増加、第3位の「履物及び附属品」（同12.1%増）が同4ヶ月連続で10%を超える増加となったことなどにより、同3ヶ月連続で10%を超える増加となる12.8%増の6.5万TEU（全体に占めるシェア4.9%）。
- 南アジア積は、スリランカ積（前年比1.5%減）、パキスタン積（同1.8%減）となったものの、インド積（同12.3%増）が好調を維持していることなどから、全体では前年比4ヶ月連続の増加となる9.1%増の6.7万TEU（全体に占めるシェア5.1%）。南アジア地域最大のインド積は、第3位の「香料、染料、化粧品原料」（前年比14.2%減）が前年比2ヶ月連続で10%を超える減少と

なったものの、第1位の「繊維及びその製品」(同5.7%増)が同11ヶ月連続の増加、第2位の「鋼材及びその製品」(同18.4%増)が同11ヶ月連続で10%を超える増加、第4位の「セメント、石、砂、粘土等」(同16.2%増)が同3ヶ月連続で10%を超える増加となったことなどにより、同3ヶ月連続で10%を超える増加となる12.3%増の4.8万TEU(全体に占めるシェア3.7%)。

## 往航の品目別荷動き

- 往航荷動き量を品目別にみると、荷動きを牽引している住宅関連3品目【「家具及び家財道具」、「建築用具及びその関連品」、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」】の合計荷動き量は、前年比4ヶ月連続の増加となる5.8%増の28.2万TEU(全体に占めるシェア21.5%)。内訳をみると、「家具及び家財道具」は、前年比3ヶ月連続の増加となる4.3%増の18.6万TEU(同14.2%)と8ヶ月連続の往航品目のトップ。「建築用具及びその関連品」は、前年比4ヶ月連続の増加となる9.1%増の3.9万TEU(同3.0%)。「床材・ブラインド等のプラスチック製品」も、前年比4ヶ月連続の増加となる8.8%増の5.7万TEU(同4.3%)と過去最高を更新。
- 繊維関連貨物:「繊維及びその製品」は、前年比2ヶ月ぶりの増加となる8.1%増の13.6万TEU(全体に占めるシェア10.4%)。
- 電気製品:「一般電気機器」は、前年比2ヶ月ぶりの増加となる0.7%増の10.6万TEU(全体に占めるシェア8.1%)。また、「テレビ・ビデオ等の映像・音響製品」も、前年比2ヶ月連続の減少となる10.2%減の3.3万TEU(同2.5%)。
- 玩具類:「おもちゃ」は、前年比2ヶ月ぶりの増加となる6.6%増の4.0万TEU(全体に占めるシェア3.0%)。
- 自動車関連貨物:「自動車部品」は、前年比3ヶ月ぶりの減少となる1.7%減の5.3万TEU(全体に占めるシェア4.0%)。また、「自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ」も、前年比2ヶ月連続の増加となる9.0%増の3.8万TEU(同2.9%)。
- 寄与度からみると、「繊維及びその製品」(寄与度0.8%)、「家具及び家財道具」(同0.6%)、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」(同0.4%)などが増加に寄与した。ちなみに上位10品目以外の寄与度は3.6%。

表-2 往航:2015年5月の品目別荷動き(上位10品目)

品目名	荷動き (TEU)	前年比 (%)	寄与度 (%)	シェア (%)	前月比 (%)
1. 家具及び家財道具	185,779	4.3	0.6	14.2	2.8
2. 繊維及びその製品	136,185	8.1	0.8	10.4	12.9
3. 一般電気機器	106,006	0.7	0.1	8.1	8.7
4. 床材・ブラインド等のプラスチック製品	56,946	8.8	0.4	4.3	12.9
5. 自動車部品	53,139	▲1.7	▲0.1	4.0	▲7.9
6. おもちゃ	39,506	6.6	0.2	3.0	28.4
7. 建築用具及び関連品	39,175	9.1	0.3	3.0	3.0
8. 自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ	38,488	9.0	0.3	2.9	▲9.1
9. 履物及び附属品	34,599	▲3.8	▲0.1	2.6	8.2
10. テレビ、ビデオ等の映像・音響製品	33,434	▲10.2	▲0.3	2.5	2.5

## 運賃指数

- 北米往航（アジアから米国）：運賃は直近では下落傾向。TSAは3月に運賃修復を行ったが成功しなかった。4月にも運賃修復が予定されている。
- 北米復航（米国からアジア）：運賃（ニューヨーク→塩田間）は11月以降下落傾向が続く。

図－1 北米航路における運賃指数の推移（単位：ドル/TEU）

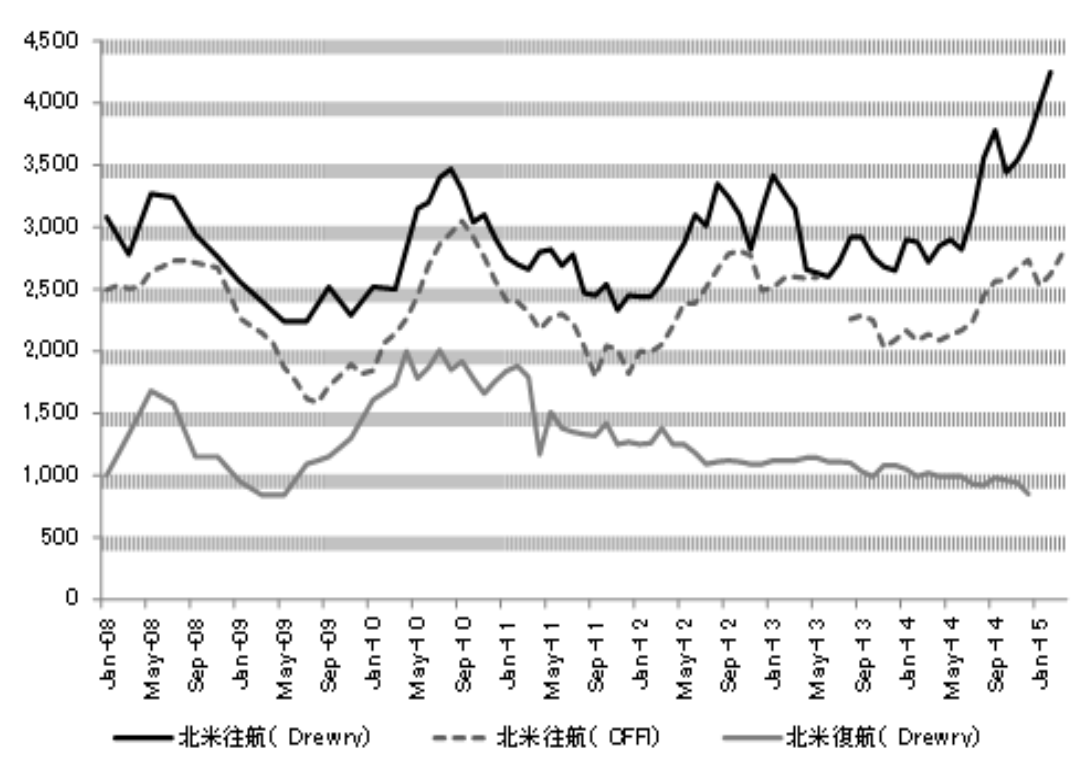


表-3 米国内地域別(西岸/東岸/ガルフ)荷動きの構成比の推移

米国内地域 集計年(月)	往 航			復 航		
	西岸揚 (%)	東岸揚 (%)	ガルフ揚 (%)	西岸積 (%)	東岸積 (%)	ガルフ積 (%)
2010年	70.8	27.6	1.6	67.1	30.7	2.3
2011年	70.2	28.0	1.8	66.5	31.1	2.4
2012年	69.9	28.0	2.1	65.3	32.0	2.7
2013年	69.6	28.3	2.1	64.8	32.4	2.8
2013年1月	71.4	26.6	1.9	64.3	33.0	2.8
2月	71.9	26.1	2.0	64.8	32.5	2.6
3月	66.2	31.6	2.2	65.9	31.5	2.6
4月	71.1	26.7	2.2	64.6	33.0	2.3
5月	69.1	28.9	2.0	66.0	31.4	2.5
6月	69.8	27.9	2.3	64.3	33.0	2.7
7月	69.3	28.4	2.3	65.2	32.2	2.7
8月	67.1	30.5	2.4	66.1	31.2	2.7
9月	70.2	27.8	2.1	64.6	32.4	3.0
10月	67.6	30.1	2.4	64.0	33.1	2.9
11月	70.7	27.2	2.0	64.7	32.7	2.7
12月	68.9	29.2	1.9	64.7	32.3	3.0
2014年1月	70.7	27.4	1.9	63.7	33.2	3.1
2月	65.8	31.7	2.4	64.6	32.4	3.0
3月	69.3	28.4	2.3	64.5	32.6	2.9
4月	70.4	27.4	2.3	64.8	32.5	2.7
5月	68.7	29.0	2.2	64.2	32.7	3.1
6月	70.7	27.3	2.1	62.8	33.8	3.4
7月	67.5	30.1	2.4	61.2	35.3	3.5
8月	68.0	29.6	2.4	64.0	32.6	3.4
9月	68.4	29.3	2.3	61.1	35.3	3.6
10月	67.1	30.5	2.4	61.7	35.1	3.3
11月	67.4	30.4	2.2	58.2	38.2	3.6
12月	65.9	31.7	2.4	59.7	36.6	3.7
2015年1月	60.1	36.2	3.7	53.0	42.0	5.0
2月	60.8	35.9	3.3	58.5	37.1	4.3
3月	65.6	32.0	2.5	56.9	38.6	4.5
4月	65.2	31.5	3.3			
5月	65.1	31.9	3.0			

表-4 船社別輸送量シェア(%)

順位	往航船社名	2013年	2014年	2015年1-5月
1	EVERGREEN LINE	9.66	10.23	10.62
2	MAERSK	10.50	10.02	8.88
3	HANJIN	8.12	7.61	7.78
4	APL/NOL	7.55	6.99	5.96
5	COSCO	6.75	6.57	7.00
6	MSC	6.28	6.52	6.72
7	CMA-CGM	6.60	6.41	7.93
8	K LINE	5.56	5.57	5.72
9	HYUNDAI	5.76	5.23	4.44
10	YANG MING	4.97	5.01	5.07
11	OOCL	4.46	4.72	4.38
12	MOL	4.52	4.58	4.26
13	NYK	4.25	4.57	4.29
14	HAPAG-LLOYD	3.82	4.42	4.16
15	CHINA SHIPPING	4.89	4.37	4.60
	OTHERS	6.30	7.17	8.17
	TOTAL	100.00	100.00	100.00

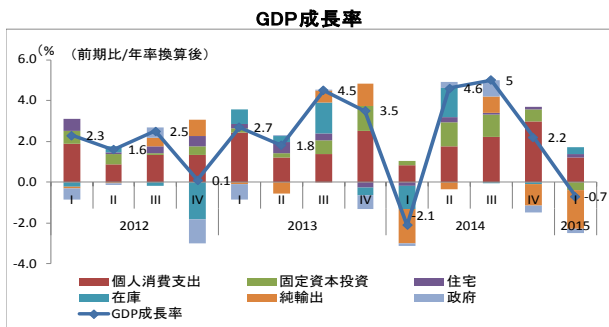
順位	復航船社名	2013年	2014年	2015年1-3月
1	MAERSK	9.84	9.89	7.64
2	EVERGREEN LINE	8.83	9.31	8.93
3	MSC	9.05	8.76	7.86
4	APL/NOL	7.83	7.18	7.13
5	HANJIN	7.59	7.13	7.98
6	CMA-CGM	6.17	6.01	7.61
7	OOCL	5.65	5.85	6.47
8	NYK	4.75	5.70	6.52
9	HYUNDAI	6.43	5.66	4.84
10	K LINE	5.65	5.63	6.32
11	YANG MING	5.51	5.49	5.39
12	COSCO	5.81	5.49	4.15
13	MOL	4.26	4.66	5.48
14	HAPAG-LLOYD	4.48	4.48	5.19
15	CHINA SHIPPING	3.89	3.65	2.80
	OTHERS	4.25	5.11	5.68
	TOTAL	100.00	100.00	100.00

(注)：単位は%、2014年を基準とした順位。

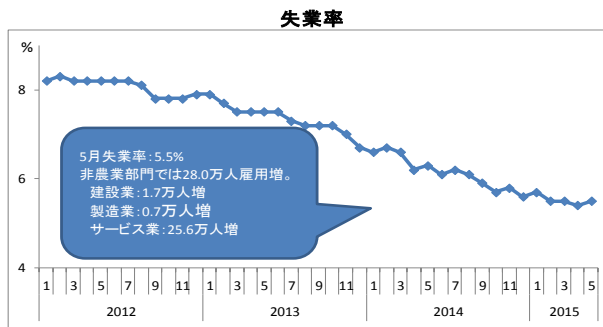
**(参考) 荷動きに関連する米国の経済指標・動向**

**2014年6月作成 米国経済:回復基調を維持するも低調**

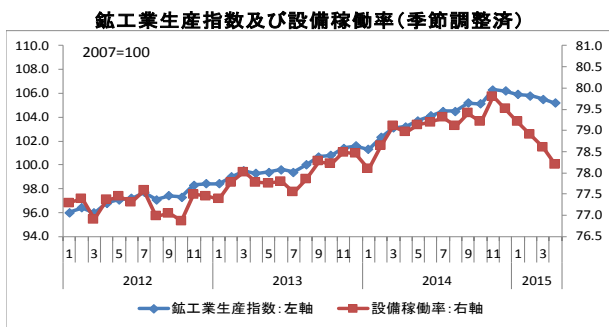
- ◆2015年第1四半期GDP(改定値)は-0.7%に下方修正。個人消費、在庫投資、純輸出及び政府支出が下方修正された。
- ◆5月の失業率は4月の5.4%から5.5%に0.1ポイント上昇。非農業部門全体では28.0万人増。建設業1.7万人増、サービス業では25.6万人増。
- ◆4月の鉱工業生産指数は前年同月比1.9%増(前月比0.1%減)。鉱工業生産指数及び設備稼働率共に前月比では5か月連続の減少。特に設備稼働率の落ち込みが目立つ。
- ◆ガソリンおよび先行指標であるWTI価格は8月以降急落。2012年以来の大幅下落で、2014年10月以降下落率が加速していたが、2015年1月以降上昇傾向を示している。
- ◆4月の住宅市場は、新築住宅販売は前月比6.8%増。中古販売はやや軟調。住宅着工件数及び住宅許可件数の改定値は増加に転じたものの、対前年比では低い伸び率となっている。
- ◆5月の小売売上高(速報値)成長率は1.2%増。
- ◆10月28日から10月29日に開催された連邦公開市場委員会(FOMC)の定例会で量的緩和(QE3)修了を決定。ゼロ金利は当面維持。次回FOMC定例会は6月16-17日。



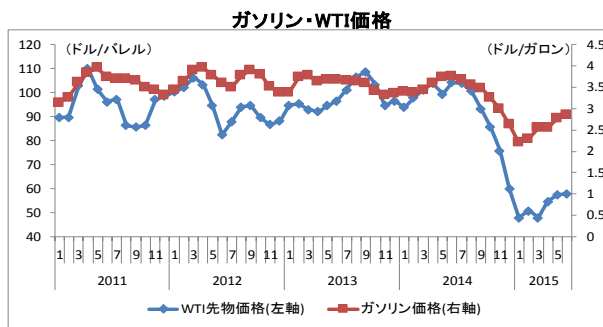
(米国商務省経済分析局)



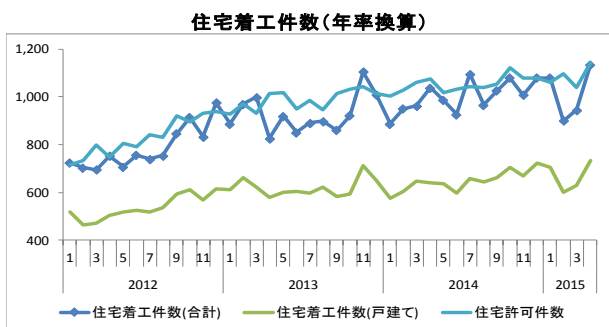
(米国労働統計局)



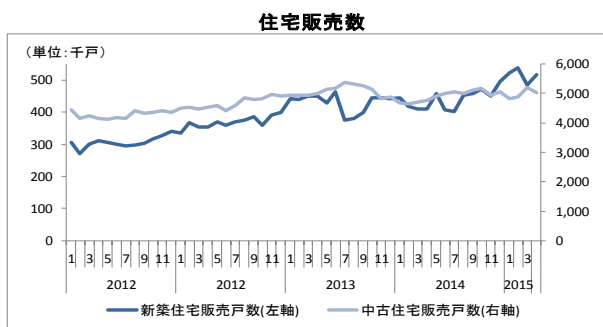
(米国連邦準備理事会)



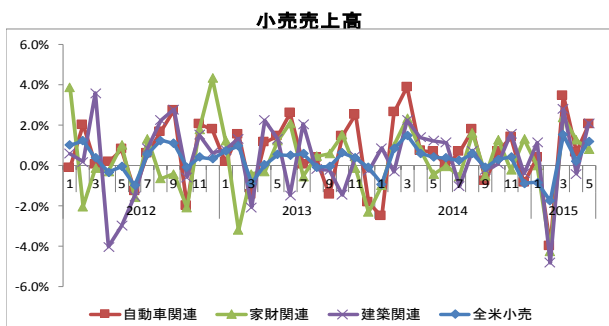
(米国エネルギー情報局)



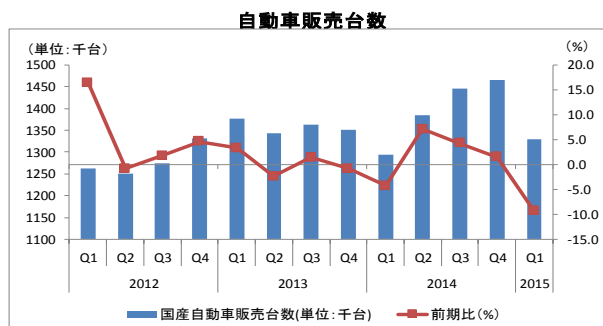
(米国商務省センサス局)



(米国商務省センサス局)



(米国商務省センサス局)



(米国商務省経済統計局)